

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

【概要】

学力調査の国語科における正答率の結果は、滋賀県及び全国の平均正答率と比較して高く、算数科については、全国平均正答率とほぼ同等の結果でした。どちらの教科も滋賀県及び全国と比較して無回答率が低く、回答形式別正答率では選択式で正答率がやや高いことも得点につながったと考えられます。

国語科では、「読むこと」は全国平均同等で、それ以外の5つの項目は全て全国平均を上回っていました。算数科については、「図形」の項目は全国平均をやや上回りましたが、それ以外の3項目については、全国平均とほぼ同等かわずかに下回る結果でした。

本校では、国語科を中心として、「話す・聞く力」を育てるために自分意見や考えを、ペアやグループで交流する時間を積極的に授業に位置づけて、話し合い活動に取り組んでいます。また、資料の読み取りや、必要な情報を取り出す力が身につけられるよう、丁寧な指導を心がけています。そのことが成果につながったと考えられます。

算数科では、1時間のねらいとふり返りを大切に、基礎基本に関わる力を丁寧に指導してきた成果として表れています。ただ、数量関係を捉え式に表すことや、変化と関係を考える問題に対しての正答率が他の問題に対して低い水準となりました。題意を把握するために、図や数直線などを視覚的に表し、立式に至る根拠をもって解く力や、数字の操作ではなく、解答の見積もりや量感がもって解く力を育てていきたいと考えます。

【指導の充実に向けて】

児童質問紙においては、各教科についての質問で全て全国平均よりも肯定的な回答が上回っています。その他のほとんどの領域でも全国平均を上回り、特に「心理的側面」「授業改善」の項目において、全国平均を大きく上回る項目がありました。

「心理的側面」の「学校に行くのは楽しい」や「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人に相談できますか」の項目で大きく肯定的な回答があったことは、日頃、教科担任制を導入するなどチーム学校として担任だけではなく学年やその他の教員も含め、学校の教職員全体で児童の困り感について丁寧に対応できたことが児童の実感として表れていると考えられます。

また、「授業改善」の「自分の考えを発表する場面で工夫ができた」や「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができた」の項目で大きく肯定的な回答があったことは、「ICT活用」の項目でも肯定的な回答が高いことから、ICT（メタ文字）を授業の発表場面だけでなく、思考や判断場面においても有効に活用できた成果だと考えられ、今後もICTを活用した授業改善についての研究を「探求的な学習」の視点も取り入れながら一層充実させていきたいと思えます。

各項目の回答を全国平均と比較すると、「心理的側面」の「人が困っている時は進んで助けていますか」で一部否定的な項目が見られました。道徳や特別活動の時間等で、自分や友達について考えたりふり返ったりする活動を通して、人が困っている状況についてよく考えられる児童が多いという良さがある一方で、学校生活の中でそれを行動に移すきっかけや状況が少ない現状に気づかされました。縦割り活動や委員会活動、クラブ活動をはじめ、学級での特別活動を通して、児童相互の関わりについて改めて見直していきたいと考えます。